

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年2月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2270400407		
法人名	有限会社 アテンド		
事業所名	グループホームすかい		
所在地 (電話番号)	伊東市八幡野1759-800	(電話) 0557-33-1500	
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年10月27日		

【情報提供票より】(平成 20年 10月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円
敷金	有() 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	550 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.01歳	最低	77歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立伊東市民病院	荻原歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な大室山を眼前にし、周りは海が見え、緑の多い自然のロケーションがすばらしい施設である。近隣に居を構え生活してきた人が、同じ暮らしが継続できるようにと設立された。開設から二年半、職員の定着も進み、管理者のグループホームに対する熱い思いや、職員のやさしく、温かな笑顔、言葉かけの支援により、利用者の落ち着いた安らかな笑顔を見ることが出来る。運営推進会議や地域の協力体制の充実化を計ることにより、今後更なる発展が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で、地域との交流が課題となっている。近隣は別荘が多く、関わりは少ないが、行事等を通じて、少しずつ関係を深め、協力体制作りへつなげることを期待する。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員がそれぞれ記入し、管理者がまとめた。職員は必要性を認識しているが、まだ理解は十分とはいえない。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	近隣住民代表、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員の参加により、開催している。運営状況、活動状況や計画を報告し、意見交換を行っている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口、ポストの設置を行い、入居時に説明している。家族会や、面接時等、機会を捉えて、要望や苦情がないか繰り返し確認している。入浴時間の変更について、不満の音が聞かれたが、現状を説明し、理解してもらうなど、十分な説明を心掛けている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的な関わりは、顔の見える関係作りを心がけ、散歩中やフェンス越しの会話を楽しんだり、気軽に立寄ってもらえるような交流がある。緊急時の協力体制については、運営推進会議で地域の協力の意向があるので、これを受け具体的に取り組むことを期待する。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの個性、価値感を尊び、自信と誇りを常に感じる事のできる支援を目指し、その中でも利用者の「安らぎのある笑顔」を一番大切に考えている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関口と事務所に掲示している。管理者は全ての職員が理念を理解できるよう指導に努め、言葉使い、態度等常にゆき届いた利用者本位のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は別荘が多く、自治会、老人会等はないが、日常的な挨拶を交わす事やバーベキューへの招待、他施設の納涼祭や地域のイベントへの参加等関係作りに心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価表は全職員がそれぞれ記入し、管理者がまとめた。職員は支援の考え方を再認識する機会となり、課題を共有し、改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣町の地域包括支援センターの職員、民生委員、家族、近隣代表、職員の出席のもと開催し、施設の現状説明、活動状況を報告している。雑談的な会話が盛り上がり、いろいろな意見が聞かれるので、これからも発言しやすい会議の雰囲気を大切にし、サービス向上につなげられたい。	○	行政の参加や、定期的な開催に取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市担当課へは、電話や訪問によりアドバイスや情報を得ているが、関わりは希薄である。	○	行政の理解と支援が得られるよう、働きかけを継続されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月「ホーム便り」を発行して、暮らしぶりや健康状態等を報告している。また金銭管理の出納帳のコピーに、レシートを添付して送付し、残高について確認印をもらっている。家族来訪が比較的多いので職員異動はその都度紹介している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情や相談の窓口は重要事項説明書に明記している。また玄関入口に苦情箱を設置しているが、これまで利用が無い。訪問時にいろいろ話している中からの見極めを大切にしている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	昨年退職者が続いたが、現在は定着しており、管理者も離職の原因を把握することに努めている。また利用者が不安に陥らないよう配慮し、設立時からの職員が利用者へ安心感を与えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	行政主催の研修は担当者が受講している。他の職員も段階に応じて育成の計画を立て、参加できるよう考慮している。受講後は、研修内容を他の職員に報告し、共有している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	隣町のグループホームと交流し、施設見学や実習研修を行っている。活動報告書を作成し、気づきや課題を明確にすることで、質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	問合せや施設見学の時点から、関係作りが始まると考えている。本人・家族の不安や要望を十分聞き取り、利用者のペースに合わせた利用開始ができるように努めている。施設見学の際は、他の利用者との関係作りにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に掃除や料理をしたり、地域行事のいわれや仕来たり、作物の作り方等を教えてもらったり、家庭的な雰囲気の中で、共に支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、話を聴くこと、表情や動きから思いを汲み取ることを心掛けている。表現が困難な方に対しては家族からの情報も得て、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や意向を踏まえ、担当者の意見を取り入れながら、計画作成者が作成している。	○	利用者や家族の情報、要望、課題、改善策等、一連の流れがわかるよう、記録の仕方を工夫されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは利用者の状況により、3ヶ月、6ヶ月に、1度行っている。結果を利用者、家族、職員と話し合い、次のステップにつなげている。	○	状況に変化があった利用者のケアがどの様に移行しているのか、介護計画に照らした状況把握がわかりにくいので、記録の仕方を工夫されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外泊の送迎、看護ヘルパーの受入れ、理髪利用等希望に応じ柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医には職員が同行し、受診結果は職員間で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護方針は家族、利用者に書面と共に説明し、利用者、家族からの意思確認は書面にて受けている。これまでに1件の看取り事例があったが、その際、関係者間の話し合いを十分に行い、方針の共有に努めた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時に、守秘義務について話している。支援の中で、言葉かけの比重が多いので、言葉遣いについて徹底できるよう注意している。また記録物の保管も決まった場所にきちんとされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の様子を見極め、一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは、できる人が行っている。職員は一緒にテーブルに着き、共通の話題を楽しみながら、さりげなく見守っている。ゆったりとした時間を持ち、完食できるよう配慮しながら、食事を楽しむ雰囲気作りを心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調を見極め、午後2時から4時の間で支援している。利用者の意向や希望に合わせた変更もあり、また入浴拒否の人にはタイミングを見計らって勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみごとの場面作りに努めている。広い庭園での流しソーメンや食事会等変化のある日々の工夫がされ、一人ひとりに合った役割分担も喜びにつながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	別荘地の一角という環境の中、一人ひとりの外出への対応が難しい状況にあるが、ドライブ、外食、ピクニック、イベントへの参加等外出の機会を作るよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉はロックされているが、玄関、他の出入口は日中開錠している。個々の状態により、職員と一緒に出かけることを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練、消火訓練を行っている。防災、緊急時対応のマニュアルを作成し、職員に周知している。別荘地域でもあり、地域の協力体制はできていない。	○	運営推進会議を通して協力依頼を働きかけられたい。ホームの存在をアピールし、相互の協力体制の構築につなげることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は状況を見ながら柔軟に対応している。成人病対策、体調不良時等対応を工夫し、食欲をそそる盛り付けにも配慮している。食事、水分摂取量も一人ひとり把握し、職員間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間、台所がワンフロアで、所々にソファや椅子が置かれ、カレンダーや時計も見易い位置にある。採光はカーテン、ブラインドで調節され、外の樹木も目に入る。浴室、トイレとも清潔で、室内の掃除も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具や品々が置かれ、利用者の状況、個性に合わせた居心地良い空間で、落ち着いた雰囲気になっている。		